



幻曲庵

二畳の茶室

二畳の茶室という小さな空間の中で、一杯のお茶を飲む。

この企画は「二畳の茶室の空間の制作を通して日本の伝統的空間のスケールを学ぶ」、「茶会を開く事で、日本伝統の文化に触れる」を基本方針として2008年から始まった大学祭企画。今日体験する機会の少なくなった茶室や茶会を幅広い層の来場者に体験してもらう事を目的としている。ここでは茶室の伝統的な構成である露地、躰り口、床の間、木造の要素を残しながらも、茶室空間の新しい可能性を模索し、企画段階から制作に取り組んだプロジェクトである。

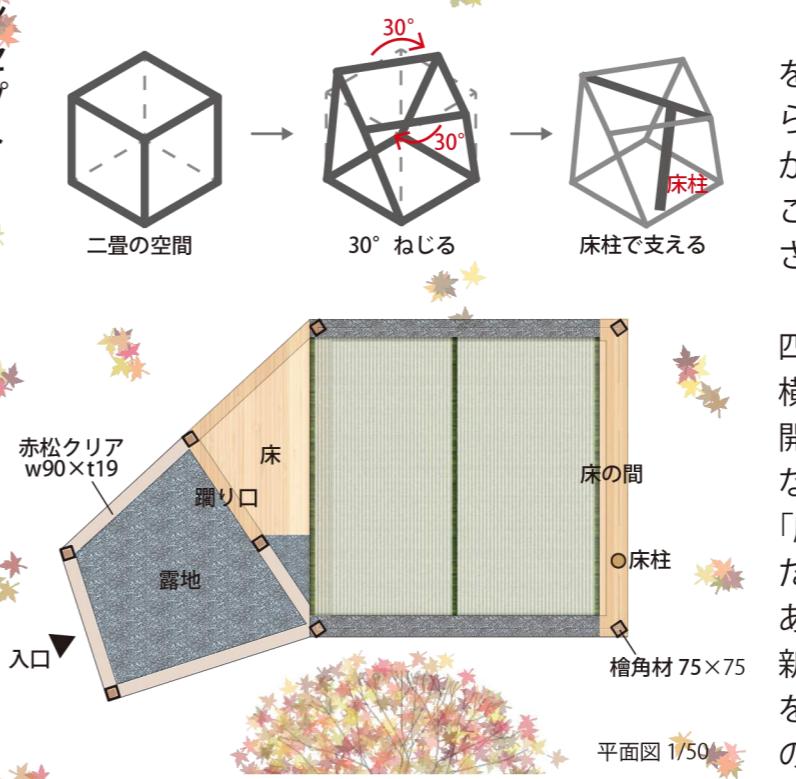
一企画を終えて

幸いながら両日とも天候に恵まれ、お茶会も老若男女、たくさんの人々に体験して頂けた。家族連れも多く、特に子供たちにとって茶室・茶道を殆ど体験したことがないと思われるので、大変有意義な企画となったと考える。また外観だけでは伝わりにくいコンセプトを分かり易くパンフレットに記載し配布したことも参加者の理解を得ることに繋がった。

企画を練り、図面を引き、手を動かしてスタディし、一つの建築をつくり上げる。建築としては小さな計画ではあるが、インスタレーションとは異なる「建築」をつくることができたと思う。企画・スタディ・施工・運営のために費やされた多くの時間は、学生と社会人の中間にあたる大学院2年の時期において大変貴重な経験となった。

2 設計コンセプト

二畳という狭小空間の設計、樹木と茶室との関係、茶室の伝統的様式の表現をコンセプトとし、空間を制限することと、空間に広がりを与えることこの相反する2つを、幻曲庵はねじれ曲面で表現した。



3 大学祭当日の様子

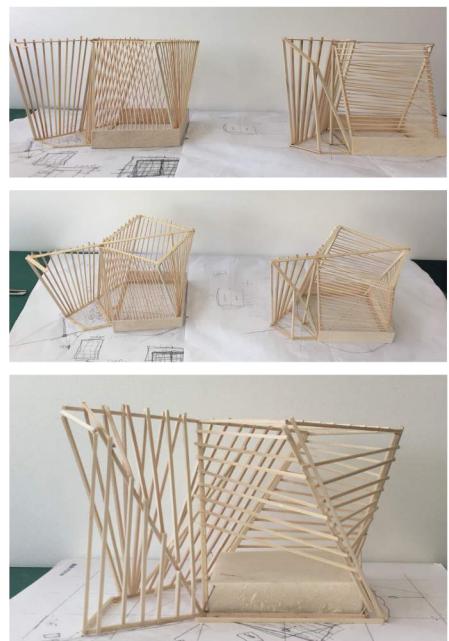


お茶会を開催し、私たちが制作した茶室を通して多くの方に、木材でつくる空間の面白さを体感していただいた。



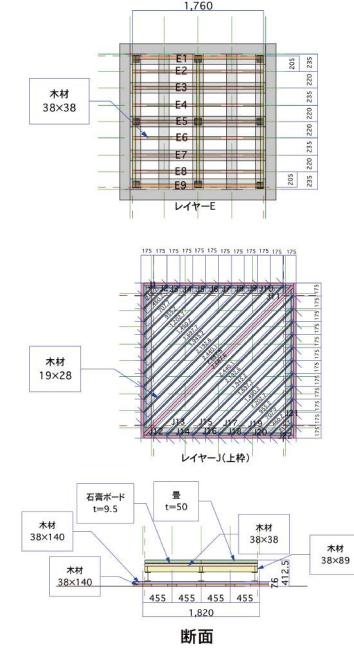
17時までお茶会を開き、夜はライトアップを行った。日中の茶室とは違った雰囲気を感じることができた。

01 構想・設計 9/27~10/17



1/20の模型を使ってねじれや露地入口、茶室と周辺との関係をいくつものパターンをつくり、スタディを繰り返した。

02 施工図面作成 10/17~10/20



容易に組み立てができるようにレイヤーごとに施工図面を作成した。

03 土台組み立て 10/21~10/24



レイヤー別に作成した土台を敷地に搬入し、組み立てた。

04 仮柱・柱の施工 10/25



斜めの柱を支えるために仮の柱を建て、柱を安定させた。

05 屋根・露地の施工 10/25



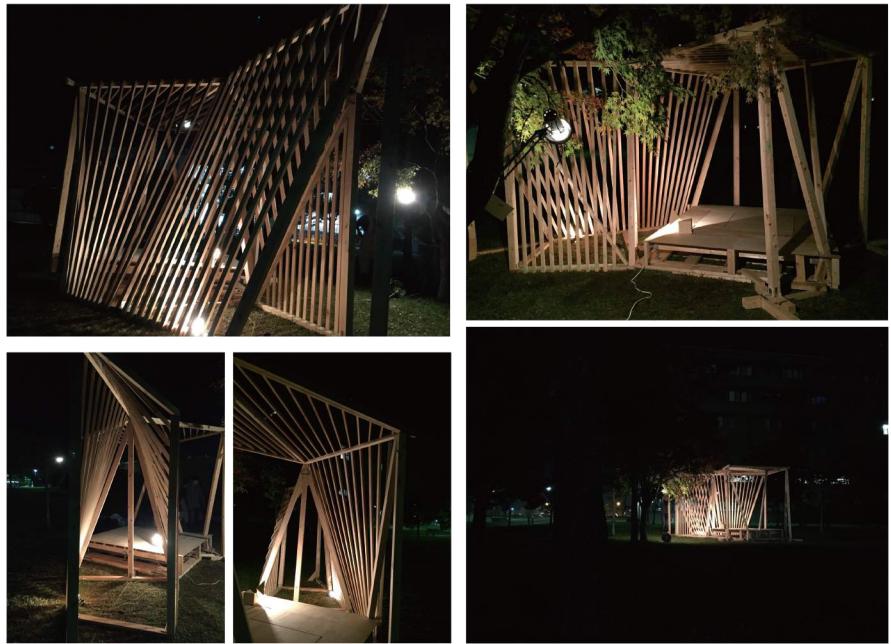
露地の柱などの大まかなフレーム、屋根フレームの取り付けを行った。

06 柱の補強+露地入口の施工 10/27



斜めの柱が自立するように柱の下部を補強し、露地入口のフレームを仕上げ行なった。

07 床柱・露地の格子の施工 10/27



意匠材となる露地の縦格子は、屋根の格子から連続するように、バランスを見ながら1本1本長さを調整し取り付けた。

08 茶室格子の施工 10/30



意匠材となる茶室の格子は、ねじれ面をつくり出し、視線の考慮と露地の縦格子との重なりの美しさから横格子とした。

09 茶室格子の施工+仮柱撤去 10/31



茶室の横格子の仕上げを行い、雨をしのぐために屋根は軽い素材を使用し、斜めの柱を支えていた仮柱を撤去し、ようやく茶室の形が見えてきた。

10 仕上げ



茶室の土台を板で囲み、露地の砂利や床の間を施工して完成した。



今回で10回目となったこの二畳茶室の企画は、これまでにも様々な挑戦をしている。今後もこの企画が更なる発展と挑戦をしていければと思う。